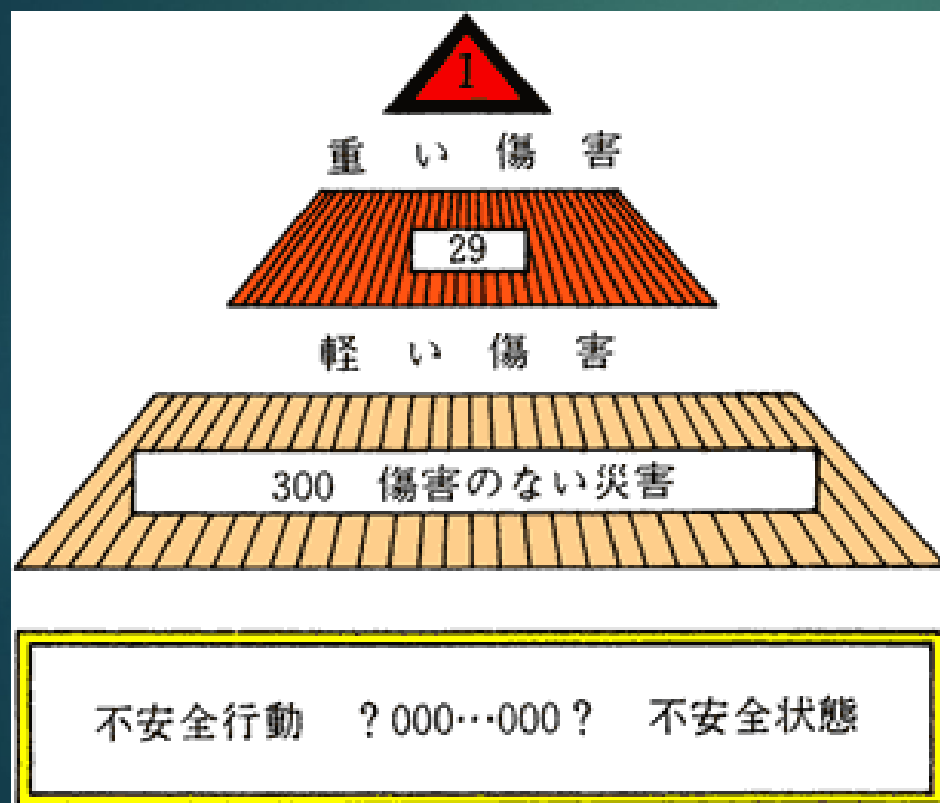


# 学生生活と安全

全学教育から専門教育（工学系）へ

# ハインリッヒの法則とヒヤリハット

- ・ちょっとした危険が将来の大事故へつながる



日常の「ヒヤリ」  
「ハット」を大切に！

図 I - 1 - 2 傷害の程度と頻度  
ハインリッヒの法則

# 日常生活においても 北大生（工学部）としての 自覚を持って下さい

- ▶ 北大生としての社会的な立場
- ▶ それに伴う責任
- ▶ （工学の）高等専門教育を受けているということ

想像力・他への配慮・自制心

# 飲酒・自転車・自動車 による事故の防止

# 急性アルコール中毒

5

## ▶ アルコールの影響

適量のアルコールは緊張を解放し、リラックスさせる

量が多過ぎると、急性アルコール中毒を起こす

## ◆ 急性アルコール中毒の症状

血液中のアルコール量

少量



大量

多弁

ふらつき

千鳥足

昏睡

深昏睡致死

外見、症状

# 飲酒で注意すべきは

- ▶ 無理強いしない。（他者への配慮）
- ▶ 自分の限界以下で押さえる。（自制）
- ▶ 周囲に体調不良者がいないか配慮する。
- ▶ 体調不良者を介護する場合は最後まで面倒を見る。

# 交通安全（自転車編）

7

夜間にはライトをつける. 他人から見えるようにながら運転（傘をさして, スマホを操作）

冬季の運転は危険  
（自分だけが怪我をするだけでは済まない）

歩行者に配慮する

駐輪場所を守る

# 自転車に乗る際は

- ▶ 危険を伴う乗り方をしない（自分と他人のため）
- ▶ 歩行者に十分配慮する（すれすれで追い抜くなどNG）
- ▶ 自分の安全に配慮する
- ▶ 北大構内も道交法が適用されます
- ▶ 駐輪場所や方法のマナーを配慮する
- ▶ 冬場（雪道）の自転車利用は自粛しましょう



# 交通安全（自動車編）

9

## ▶ 自動車を運転する者の安全義務

学生、社会人の区別なく、責任を有する

**不注意は一瞬、責任は一生**

運転の巧拙もありますが、ルールに対する意識の低下（道交法を忘れてしまっている）、想像力の低下（危険予知訓練を思い出して）、疲労による判断力の低下、自制心の低下も事故につながる。

# 体育活動における安全

10

## ▶ 傷害事故の発生

競技種目によって傷害の程度が異なりますが...

## ■ 傷害事故の防止

適した服装、用具、靴など      運動施設の点検  
体調チェック   ウォーミングアップ、準備運動

怪我が起こりやすい状況について予測し得る予備知識が必要

# 課外活動

▶ 課外活動      サークル等の自主的な運営

団体、個人の自己責任

想定される事故への対策を立てる義務

大人数で集会・・・

登山・沢登りなどの危険を伴う・・・

自動車を使用・・・

的確な状況判断が必要

# 学部の実験・演習における安全の心得

- ▶ 講義の実験・演習における対応と、研究室における研究の際の安全対応は基本は同じであるが、専門分化により多少異なる部分がある。
- ▶ 学部の実験では、
  1. 健康状態（体調）に不調が無いか。
  2. 服装（靴も含む）や周囲の整理整頓に留意。
  3. 実験作業に関わる予備知識を付けておく。
  4. 担当教員の注意に正しく従うこと。

# 日常生活・大学における 実験・実習・講義のいずれも

常に想像力を働かせる、潜在的危険や自分・他人への影響を考え、配慮を怠らず注意深く行動する.

それでも事故は起こり得る.

事故にあった場合のことを想定し、ある程度の備えをすることが重要.

# 学生教育研究災害傷害保険

14

実験・実習や体育の授業中における不慮の事故により負傷、死亡などといった災害を被ることがある。このような事態に備えて設けられている。

- ▶ 北大入学時に全員が加入しているはず。
- ▶ 課外活動でのケガも保障されます  
(ただし条件があります)。

# 事故・災害時の対応と連絡先



# 火災（対応）

16

非常口の確認

まず行なうべきことは

連絡（通報）

大声で叫ぶのも必要

次にすべきことは

消火可能かの判断

火が天井に達している場合は、素人による消火は危険

消火可能  
ならば

消火活動（器具、注意が必要）

ダメなら

避難（最小限の延焼防止、注意）

逃げ遅れた者はいないか



# 地震（避難と注意）

17

非常口の確認

地震動の大きさを判断して冷静に行動する

むやみに動かない

落下物に注意する

家具の転倒に気をつける

避難口の確保

エレベーターを使わない  
逃げ遅れた者はいないか

# ケガや急病の応急処置

18

確認： けが人の状態；呼吸・心拍・意識・出血、事故の原因（除去は可能か）

## ▶ 北大構内の対応機関

保健センター、北大病院外来受付

緊急の場合は救急車を呼ぶ（※）

## ■ 救命処置（心肺蘇生法：但し、予備知識・訓練が必要）

気道の確保

嘔吐物の除去

人工呼吸

呼吸の確認

心臓マッサージ

心停止の確認

# 北大での連絡先

19

被災者または  
事故発見者

治療を要する場合

(時間内)

(時間外)

工学研究院警務員室

TEL:

**3999**

(時間内・時間外)

●保健センター(TEL: 5484, 5354, **706-5346**)

●北大病院受付(TEL: 5640, 5641, 5642)

●北大近くの医療機関

(北大・安全の手引き、裏見返し)

●119番 (緊急度・重症度の高い場合)

●札幌市医師会夜間急病センター(内科・耳鼻科のみ (TEL: 641-4316))

●土・日祝祭日の当番病院(WEBや新聞で確認)

●北大病院救急部(TEL: 5736, 外線706-5736)

●119番 (緊急度・重症度の高い場合)

時間外に北大病院受診の場合には  
時間外受付を利用する。

# 緊急・救急連絡

20

当事者だけではなく  
発見者の義務は？

通知・救助

連絡先ページをコピーしておく和良好的。必ずしも  
110や119が優先ではない(状況による)

緊急時:

- 1) 事故による怪我(交通事故を含む)
- 2) 火災、漏水を発見(発見場所による)
- 3) 犯罪を目撃 など(警務員室・警察に通報)

# 疲労

21

◎疲労がたまると……

- ・作業効率が落ちる
- ・注意力が散漫になる
- ・ **思わぬ事故を引き起こす**



# 疲労の対策

- ・ 作業時間の改善→余裕を持って
- ・ 適切な休憩, 休息
- ・ 適度な運動（ストレッチも効果的）
- ・ 作業環境（照明, 換気, 温熱など）の改善

十分な睡眠





# 精神的に落ち込まないために

23

- 1年目の時と違ってることがある
- 忙しい（学習する科目や内容が多く，必修が多い）
- 周囲との差が見えやすくなる
- 想像していたこと，やりたいことと違うと考え始める
- 講義の内容がわからない，ついていけないと思う

一人で悩まないで，誰かに相談する（初期の段階がより良い）

友人（ただし，SNSなどで匿名の相手や不特定多数相手の相談は危険）

先生（学生委員でなくても良い．1年目の担任の先生．他のどの先生でも）

工学系事務学生支援担当（③番窓口）

なんでも相談室（専門カウンセラーがいます，火曜の11時から18時・金曜の10時から17時。学外カウンセリングルームは平日および土曜日にも利用可）

# 最後に

- ▶ 注意する意識を維持するのが重要。
- ▶ 「安全の手引」と「学生便覧」は何度も目通しを。
- ▶ 「安全の手引」と「学生便覧」は配布されたものを卒業まで使うので大事に廃棄せず手元に置いておくこと。
- ▶ わからないことは質問する。

|       |       |     |                   |
|-------|-------|-----|-------------------|
| 学生委員： | 佐々木浩一 | 教授  | (A4-27, ex. 6654) |
|       | 梶原 逸朗 | 教授  | (A5-24, ex. 6390) |
|       | 小林 一道 | 准教授 | (A6-34, ex. 6429) |
|       | 植村 豪  | 准教授 | (A6-32, ex. 6785) |

- ▶ とにかく学校に来る。